

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

		担当局	交通局
		担当課	総務経営課
		課長名	片山
		施策番号	
		V - 2 - (3) - ①	
事業概要	1 事業開始 昭和4年6月15日		事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )
	2 施設 2営業所4案内所		
3 路線 営業キロ 176.75km 運行系統数 117系統			
4 車両 乗合車 99台 貸切車 20台			
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額 (事業費備考)	目安の金額
	2,116,398 千円	2,198,460 千円	1,281,409 千円
		課長	一人
		係長	一人
		職員	一人

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	何を(誰を) どのような状態にしたいのか	公共交通ネットワークを維持するため、不採算路線も含めて可能な限り市営バスの運行を継続し、利便性の確保に努めます。また、「ふれあい定期」「福祉優待乗車証」制度など交通弱者のための施策を維持します。		成果実績	公共交通ネットワークを維持し、不採算路線も含めて可能な限り市営バスの運行を継続し、利便性の確保に努めました。また、「ふれあい定期」「福祉優待乗車証」制度など、交通弱者のための施策を維持しました。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	公共交通ネットワークの維持(市営バス路線の維持)	維持	維持	維持	大変順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	公共交通ネットワークを維持し、利便性の確保に努めるとともに、交通弱者のための施策を維持します。				やや遅れ	
	(最終目標と目標年度) 公共交通ネットワークの維持(市営バス路線の維持)					遅れ
	(最終目標と目標年度)					

活動計画	「北九州市営バス事業経営計画」(以下、「経営計画」という)に掲げている具体的な取組みを着実に実行に移していきます。			活動実績	「経営計画」に基づき、運賃改定及び利用実態に即した効率的なダイヤ改正を実施するとともに、「ふれあい定期」制度の見直し及び若松北西部地域のバス路線見直しに向け、地域住民や利用者の理解が概ね得られました。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	経営計画の着実な推進	①に向けた市議会の議決及び九州運輸局長の認可	①、②、③の実施	①、②の実施 (H24.4.1)	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	経営計画に掲げている具体的な取組みを着実に実行に移していきます。			③の実施	やや遅れ	
	①運賃改定の実施 ②利用実態に即したダイヤ改正の実施 ③「ふれあい定期」制度の見直し及び若松北西部地域のバス路線の見直しに向け、地域住民や利用者へ理解を得るための説明					遅れ

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>
	<p>成果については、概ね計画通りの成果を上げることができたため、「順調」と判断しました。活動についても、経営計画に基づき、計画通りの活動を実施することができたため、「順調」と判断しました。</p> <p>単年度実質資金収支の黒字を確保し、健全経営を維持しており、「経済性」「効率性」も発揮できていると考えています。</p>

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入	
見直し状況等	26年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(26年度の成果目標)